

原発と放射能 フクシマ6年目の現実

講師 元京都大学原子炉実験所助教 小出 裕章

2011年3月11日、巨大な地震と津波が東北地方を襲いました。たくさんの町が破壊され、2万人を超える人が命を奪われました。また、多数の人たちが、突然日常の生活を奪われ、避難所生活に苦しみました。残念ながら、世界一の地震国・日本で地震から逃れることはできません。ただ、この日は、地震と津波だけではなく、それによって破壊された福島第一原子力発電所が大量の放射性物質を環境にまき散らしました。そんな事故は決して起きないと東京電力と国が言ってきた事故でした。事故から5年以上たった今も、当日発令された「原子力緊急事態宣言」は解除できないままで、10万人を超える人たちが流離化したままで、数百万人の人たちが、本来であれば「放射線管理区域」に指定して人々の立ち入りを禁じなければならない汚染地に棄てられ、被曝におびえながら生活を続けています。その現実の中で、私たちがどう生きるべきか考えます。



撮影：松岡広樹

(講師・記)

■日 時 2016年7月16日(土) 12:30~14:30

■受講料 会員 3,024円 (入会金は税別5,000円。70歳以上は入会金無料、証明書が必要です)
一般 3,672円

■場所 ルミネ横浜8階(横浜駅東口)

<講師紹介> こいで・ひろあき 1949年生まれ。元京都大学原子炉実験所助教。東北大学工学部原子核工学科卒、同大学院修了。専攻は放射線計測、原子力安全。伊方原発訴訟住民側証人。原子力の専門家でありながら、そのリスクや問題点についての研究活動に精力的に取り組んできた。3月11日の地震以降、福島原発について昼夜を分かたず奮闘し続けている。主な著書『小出裕章が応える原発と放射能』(河出書房新社)、『原発のウソ』(扶桑社新書)、『原発のない世界へ』(筑摩書房)、『隠される原子力・核の真実』(創史社)ほか多数。

※受講者が一定数に達しない場合、やむを得ず講座を中止にする場合がございます。

※個人情報、受講連絡や各種お知らせ、講座企画の内部資料として使わせていただきます



朝日カルチャーセンター | 横浜
朝日JTB・交流文化塾

お申し込み
お問い合わせ

045-453-1122

〒220-0011 横浜市西区高島2-16-1 ルミネ横浜8階
<http://www.asahiculture.jp/yokohama>